

学校教育目標	「えがおいっぱい げんきいっぱい ひらめきいっぱい かがやく子ども」			
	○確かな学力により主体的に考え、よりよく解決する力を育みます。(知) ○公共心や規範意識、礼儀を大切にする豊かな心を育みます。(徳) ○健やかでたくましく、しなやかな体を育みます。(体) ○地域や社会のために他者と協働する力を育みます。(公) ○多様性を尊重し共生する力を育みます。(開)			
学校概要	創立 15 周年	学校長 平岡 仁樹	副校長 白井 亮	2 学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 2
	児童生徒数: 576 人	主な関係校: あざみ野中・あざみ野第一小・あざみ野第二小・すすき野中・嶮山小・荻子田小		

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<言語能力> <協働して課題を解決する力> <自分づくりに関する力>	あざみ野中 あざみ野第一小 あざみ野第二小 黒須田小 【すすき野中・嶮山小・荻子田小】	自分らしく 共に生き 未来を切り拓く子ども 小中学校間で学習指導や生徒指導の円滑な接続を重視するとともに、「児童・生徒間の交流や教職員の交流を積極的に図ることによって、子どもたちに必要な資質・能力を育て、「9年間で育てる子ども像」の具現化を目指す。具体的には小中授業研究会、小学生の中学校授業参観・部活動見学・生徒会オリエンテーション等を行う。

中期取組目標	○対話を大切にし、主体的に課題を解決する子どもを育みます。
	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもが学習の楽しさを実感し、主体的に問題発見や課題解決に取り組むことができる授業づくりを推進します。 人との関わりの中で、互いを認め、思いを伝えあうことのできる豊かな人間関係力の向上を図ります。 地域の教育資源を活かし、「生活・総合」を中心に協働して課題を解決する力やコミュニケーション力を高めます。 教職員間の連携や相互啓発を促進し、学校教育目標の実現に向けて活力ある組織的な取り組みを行います。

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①生活・総合の時間を中心に地域・保護者をはじめ様々な「ひと」とのつながりを生かした学習展開を図る。②家庭・地域を巻き込んだあいさつ運動を展開する。③コロナ禍でも可能ななかよし学級との交流の形態の工夫を図る。④重点研究では特別な教科道徳に取り組み、対話を大切にした学習展開を図る。
生きてはたらく知	①主体的に問題発見や課題解決に取り組む授業をさらに進め、児童が自分の思いや気づいたことを積極的に伝えることができるような授業の工夫を図る。②週3回の朝のスキルタイムの方法や内容等について共通理解を深めるとともに改善を図り6年間を見通して基礎基本の定着を図る。
健やかな体	①全校で「縄跳びカード」に年間を通して取り組み、体力の向上を図る。月に1度の検定日を設定し児童が無理なく継続できるよう取組の改善を図る。②学校保健委員会を中心に感染症対策や体力向上に取り組み健康維持を図る。③生活総合を中心に食育を実施する。
特別支援教育	①コロナ禍でも可能な限り、療育センターあおば、通級教室、学校カウンセラー等と連携し、個に応じた支援を進める。②子どもの困り感を共有し児童理解を深め指導に生かす。③特別支援教室の指導体制の確立を図る。
児童指導	①児童支援専任を中心にした情報の共有化を図り、組織的に未然防止や迅速な初期対応を行う。②不登校支援の組織的対応の充実を図る。③2年生以上で一部教科担任制を実施し、学年経営力の向上、児童理解力の向上を目指す。
地域連携 学校運営協議会	①コロナ禍でも可能な範囲で地域行事等への参加へ向け子どもへの広報を行うとともに、ZOOM等を活用したり時間と場の工夫をすることで地域の力を積極的に活用する。②学校運営協議会を通して、経営方針や行事の振り返り、学校評価等について発信する。
自分づくり教育	①生活・総合の学習を中心に、豊かな体験を通して多くの人と関わり自己有用感や学級・学年の所属感を高める。②キャリアパスポートを作成し、自己を振り返り自己の生き方や将来を真剣に考えることができるようにする。
いじめへの対応	①月1回の定例会のほか、随時必要に応じていじめ防止対策委員会を実施する。②「子ども相談レター」の周知と活用③年3回の児童アンケートと担任と児童の個人面談で小さな変化を見逃さないという教師の意識向上④いじめを起こさない風土づくりのために子どもと教職員の人権意識のさらなる向上を図る。
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①主幹教諭を中心に各部署等での情報や意見を吸い上げ、毎週の主幹会で迅速にそして積極的に検討や意見交換を行う。②メンターチームとミドルリーダーの連携を図り、必要感のある研修を継続する。③ペーパーレス化をさらに進める。④日課表の見直しを行い、働き方改革へつなげる。⑤定時退勤日の確実な設定と実施。